

ヤスハラケミカル 環境・社会報告書 2021

自然と暮らしを
科学でつなぐ。



CONTENTS

- 1 CONTENTS / 会社概要 / 編集方針
- 2 ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～
ヤスハラケミカルの事業活動とSDGs
- 3 会社紹介
- 5 TOP MESSAGE
- 7 経営分野
中長期的経営方針 / 財務ハイライト / 部門別状況
- 9 **特集 1**
福山工場モデル工場計画
- 11 **特集 2**
環境配慮製品開発と販売への取り組み
- 13 環境・安全分野
環境・安全に関する基本方針 / 推進体制
【目標達成状況】
2020年度の具体的目標と実績 / 無災害記録証授与制度
- 15 **【事業活動における環境配慮への取り組み】**
エネルギー使用量 / CO₂排出量 /
大気汚染物質の排出量 / 水質汚濁物質の排出量 /
産業廃棄物処理委託量 / PRTR対象物質の排出・移動量
【安全衛生への取り組み】
労働災害発生件数の推移 / 休業災害度数率の推移 /
安全衛生・環境に関する資格の保有者数
- 17 社会分野
【お客様への取り組み】
品質管理
【株主・投資家の皆様への取り組み】
株主総会 / IR活動 / 株主還元
【従業員への取り組み】
仕事と家庭の両立支援 / コンプライアンス研修
【地域社会への取り組み】
清掃活動 / スポーツ支援 / 職場体験学習

会社概要

商 号 / ヤスハラケミカル株式会社
YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.
本 社 / 〒726-8632
広島県府中市高木町1080番地
創 業 / 1947年(昭和22年)4月
設 立 / 1959年(昭和34年)2月24日
決 算 月 / 3月
資 本 金 / 17億8,956万円
主 な 製 品 / ■テルペン樹脂事業
(テルペン系樹脂)
■化成製品事業
(合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス)
■ホットメルト接着剤事業
(ホットメルト接着剤)
■ラミネートフィルム事業
(光沢ラミネートフィルム)
従 業 員 数 / 245名(2021年3月31日現在)
証 券 コー ド / 4957

「環境・社会報告書2021」の発行について

ヤスハラケミカルは、企業活動全般を通じて、持続可能で豊かな暮らしの実現を目指しています。当社の理念に基づく取り組みをご報告し、より多くの方々にヤスハラケミカルの事業活動を知っていただくことを目的に2008年より、環境報告書を発行してきました。2016年からはタイトルを「環境・社会報告書」と改め、地域社会での活動などの社会性報告に加え、経営ビジョンや財務情報についてもご報告しています。

当社は、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することにより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行っています。また、お客様、お取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、地域社会を大切なパートナーと考え、様々な社会活動を続けています。

今後も、パートナーの皆様からのご意見を伺いながら、さらに情報の拡充を図り、よりわかりやすい報告書へと進化させてまいります。

編集方針

- 報告対象範囲
ヤスハラケミカル株式会社管理部門及び生産拠点
- 報告対象期間
2020年4月～2021年3月(一部期間外のトピックスを含みます)
- 次回発行予定 ※2022年6月発行予定です。
- 発行担当部署
ヤスハラケミカル株式会社 経営企画部
TEL (0847) 44-6084(ダイヤルイン)
FAX (0847) 45-8639

本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願いいたします。

ヤスハラケミカル～私たちの考え方～

基本理念

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、
産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

テルペン化学で培った創造と挑戦の精神をもって、自然界の無限の可能性を引き出し、
産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、社会の発展、便利な暮らし、心豊
かな暮らしに貢献します。

ヤスハラケミカルの紹介

ヤスハラケミカルは環境にやさしい天然由来の「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、粘・接着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料、塗料の添加剤などの工業原料を製造しています。

ヤスハラケミカルの目指すところ

私たちは、従来利用されていなかったものに原料としての有効性を見出し、「社会に還元する」精神のもと高付加価値な製品を提供してきました。今後も、事業活動を通じて、社会の発展、持続可能な暮らしの実現を目指してまいります。



ヤスハラケミカルの事業活動とSDGs

ヤスハラケミカルは、「自然の恵みと科学技術を融合させ、持続可能な産業と生活の向上」を目指した事業を展開しています。その中で、国連が主導する持続可能な開発目標 (SDGs) の実現においても、私たちはこれまで進んできた事業活動を継続することで、多面的に貢献していきたいと考えています。

SDGsとは、国連加盟国193カ国が2030年までに取り組む国際目標です。持続可能な社会の実現に向け、17のゴール・169のターゲットから構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



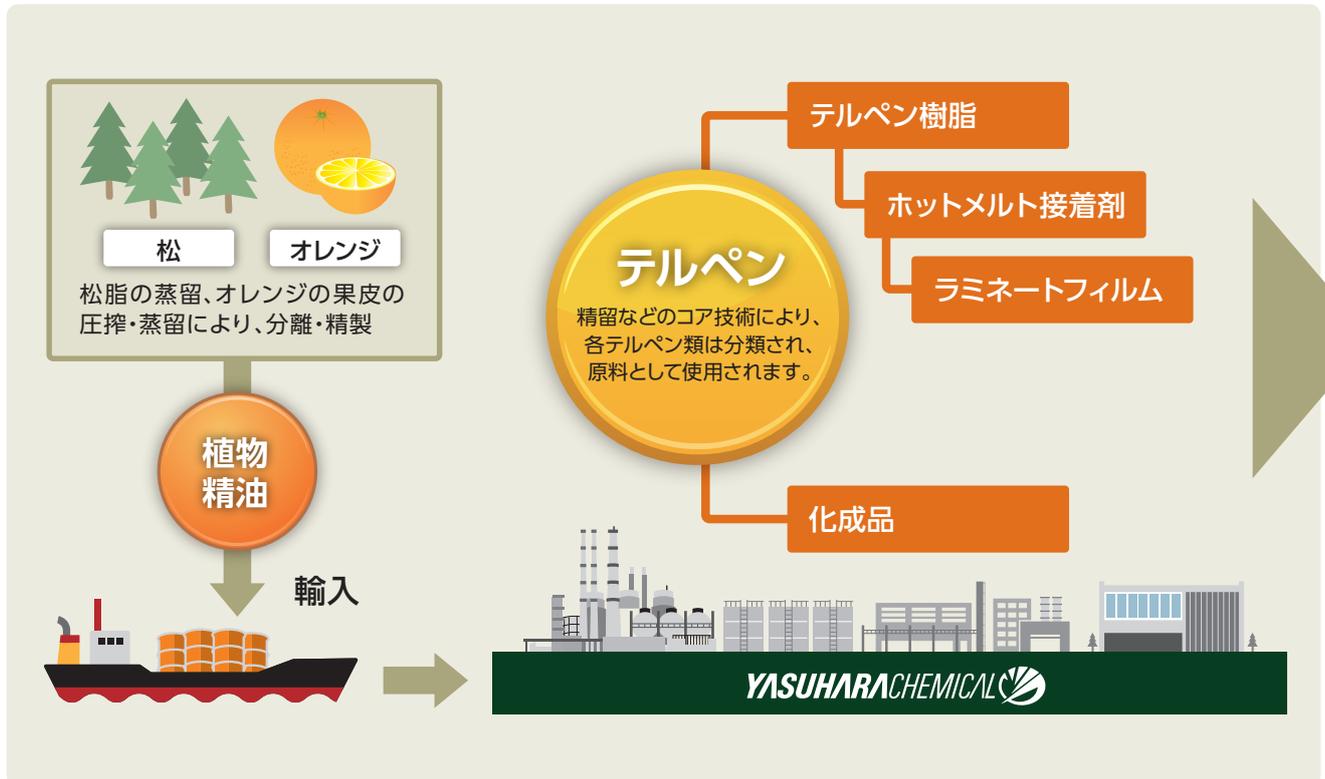
会社紹介

ヤスハラケミカル テルペンから生まれる製品

松脂や松のチップなどから得られるテレピン油と、オレンジジュース製造の副産物であるオレンジオイルを原料として、各種テルペン成分を分離精製しています。それらを付加価値の高い製品へと加工し、国内はもとより広く世界へ送り出しています。高い技術力から生まれる製品は、海外でも高い評価を得ています。

「テルペン」 とは？

植物の体内で作られる物質で、松の木から採取される「テレピン油」やオレンジなどの柑橘類の皮から採取される「オレンジオイル」に多く含まれています。テルペンは、将来の枯渇が心配される石油資源とは異なり、植物が太陽の恵みをもとに繰り返し作り出すことができる再生可能な貴重な資源です。



自社で生産したテルペン樹脂からホットメルト接着剤事業を、ホットメルト接着剤事業からラミネートフィルム事業を展開しています。原料であるテルペン樹脂の特徴を活かした製品開発が当社の強みであり、環境にやさしく、高品質な製品をご提供いたします。

テルペン樹脂

天然素材であるテルペンを主原料としており、粘・接着剤用の粘着付与剤、ゴム・プラスチック等の改質剤として、幅広い用途に利用されています。



粘着テープ



ラップ



タイヤ

ホットメルト接着剤

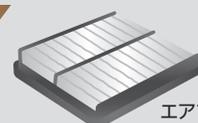
テルペン樹脂を利用し、ダンボール包装用接着剤、日用雑貨用接着剤、フィルターなどのアッセンブリー用接着剤、ゼリー容器などの蓋材向け押し出し加工用樹脂を製品化しています。



ゼリー容器や
カップ麺容器の蓋材



ダンボール包装



エアフィルター



国内・海外の
お客様へ

当社の作り出す製品は、
世界各地の人々の暮らしに
役立っています。



ラミネートフィルム

製本の光沢やショッピングバッグなどの艶出し用フィルムとして使用されます。OPPやPETフィルムにホットメルト接着剤などの接着樹脂を押し塗工しており、熱圧着することで貼り合わせることができます。



ショッピングバッグ

出版物

化成品

オレンジオイル、テレピン油を精製・異性化して得られるテルペン誘導体を香料原料、溶剤、洗浄剤等に展開しています。



芳香剤

積層セラミックコンデンサ (MLCC)

洗浄剤

環境問題への意識の高まりをチャンスと捉え、積極的にチャレンジする体制を整えています。

コロナ禍で浮き彫りになった問題の背後にある本質を見極める目が大切です。

2020年、新型コロナウイルスの影響により、生活にも経済にもさまざまな変化が起きました。

例えばリモートワークの普及や医療体制の逼迫、キャッシュレス決済の浸透などがあげられますが、よく考えてみるとこれらの背景にあるのは、急に現れた問題ではなく、東京一極集中や働き方改革、硬直的な医療体制、デジタル化の遅れなど、以前からあった問題がコロナ禍で浮き彫りになっただけともいえます。

新聞やニュースでは表層的な報道が多く、しかもバイアスがかかっていることもあるから注意が必要です。また便利な情報ツールであるインターネットから得られる情報も真実だけとは限らないので、一方的な情報だけで判断するのは危険です。

社会はたえず、さまざまに変化し続けています。物事の本質を見極めるには、一方向からだけでなく、いろいろな角度から見るのが大切です。そして普段から小さな変化にいち早く気づくことや、あらかじめさまざまな対応策を想定し体制を整えておくことが大切です。

福山工場の「モデル工場計画^(※1)」の経験から得た「改善を継続していくシステム」を全社に広げます。

福山工場は弊社の中で一番新しい工場であることから、近年さまざまな投資を行い、建物や設備を拡充してきました。その中で、新しい課題に向き合うことで若い社員の間で「なんとか実現しよう、解決しよう」とする空気が生まれ、「人の

チカラ」も伸びていくことに気づきました。

「人のチカラ」を伸ばすのに大切なのは、日常的な現場の中で起きる課題に気づき、それを解決しようとする姿勢や目です。

毎日工場で働いていても、気づこうとする姿勢がないと何も変わりませんが、「こうすればもっと良くなるのではないか」という課題解決の目を持つようになると、少しずつ現場が働きやすくなります。そして気づこうとする姿勢を、工場全体に浸透させていけば、さらに働きやすい現場になり、結果として「人のチカラ」が育ち生産性も上がってきます。

今後はこの福山モデルを、新居浜工場や鶴飼工場、総領工場にも広げていく計画です。

(※1) 詳細はP9、特集1「福山工場モデル工場計画」をご参照ください。

環境意識の高まりに的確に対応できるよう、バイオマス関連技術やESGへの戦略的強化^(※2)をはかっています。

一方、製品開発や販売の面でも、変化に気づく目を持つことや課題解決への迅速な対応は重要なテーマとなります。

近年起きている全世界的な環境意識の高まりは、天然素材を原料とする弊社にとって追い風となります。それを成果に結びつけていくため、どこでどんな変化が起き、どんな需要が生まれそうかをいち早く予測するよう、社員一丸となって多方面にアンテナを広げています。

その一環として、このたび大手飲料メーカーからバイオマス比率を高めた新たな包材用ホットメルトをご採用いただきましたが、弊社の取り組みはこうしたバイオマス製品だけにとどまりません。低炭素社会実現のために、リサイクルやリユース、リデュースなどに役立つ製品開発から生産や物流

まで含めた環境負荷削減まで、弊社の技術で何ができるかを幅広い視点から検討・提案しています。

さらには環境面だけでなく、社会活動や企業姿勢などのESG全般において、弊社の果たす役割をしっかりと考え、より働きやすい職場づくり、より暮らしやすいまちづくりにも貢献していきます。

(※2) 詳細はP11、特集2「環境配慮製品開発と販売への取り組み」をご参照ください。

明日への希望の持てる日本にするために、 小さくても特色のある会社であり続けます。

コロナ禍で先行きの見えにくい状況が続き、明日への希望が持てないような雰囲気や日本中に広がっていると感じています。こうした雰囲気を明るい方へ変えていくには、一人ひとりの人が前向きに行動することが大切だと思います。

日本の中には変わることを恐れている会社もありますが、変化しないままでは汎用品の製造はどんどん新興国に移管され、将来は先細りするだけです。私はヤスハラケミカルを、変わることを恐れず変化に柔軟に対応することで、将来への種まきができる会社になりたいと考えています。そして「小さくても特色のある会社」であり続けたいと願い、社員一人ひとりに社会の変化や物事の本質を見極める目を持つように言い続けています。そうすることが人を育て、会社を変えていく原動力になると思います。

日本中に、変化に対応しながら前向きに進む「小さくても特色のある会社」が増えていくことで、明日への希望の持てる日本に、もっと暮らしやすい日本になっていくことを願っています。

ヤスハラケミカル株式会社

代表取締役社長 **安原 旗 二**

Teiji Yasuhara



中長期的経営方針

当社は、設備と人の両面から、体質改善による基盤強化を推進しています。中長期的経営方針としては、収益性改善、新規開拓、グローバル展開を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

「人のチカラ」

中長期的経営方針で掲げた目標を達成するためには、「人のチカラ」が最も重要であることを強く認識しています。そのため、社員の意識改革に繋がる教育投資、自律型人材育成を積極的に推進してまいります。ヤスハラケミカルは、従業員一人ひとりが筋肉質になることを目指しています。筋肉質であるためには、例えば、情報をただ集めるだけではなく、読書などにより知識を増やし、情報を編集する力を身につけることが必要です。知識が増えると、視野が広がり、創造性が育まれ、競争に負けない力を発揮できるようになると考えています。長期的視点に立って、「人のチカラ」を伸ばしていきます。

収益性改善

高収益製品の売上増加、工場の合理化の推進を図ることで、利益を創出する収益構造を確立します。



収益性
改善

人のチカラ



グローバル
展開

新規開拓



グローバル展開

新興国市場など成長を取り込める事業を展開している顧客を重点的かつ積極的に探索することで、海外市場の新規開拓と拡大を目指します。

新規開拓

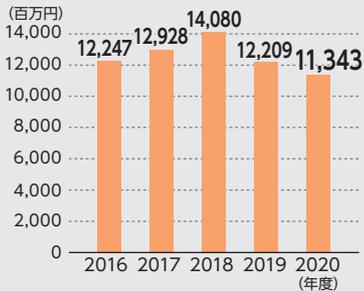
研究開発と事業化の加速を図りながら、付加価値の見込める分野、用途を積極的に開拓します。



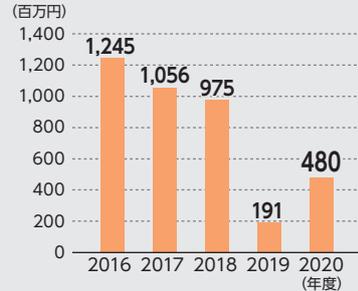


財務ハイライト

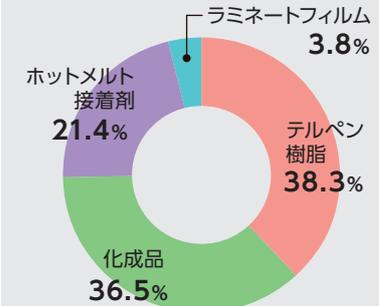
●売上高の推移



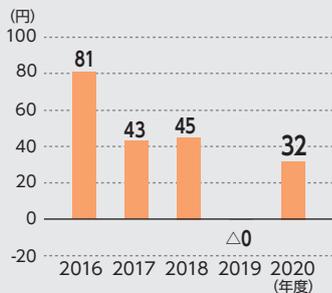
●経常利益の推移



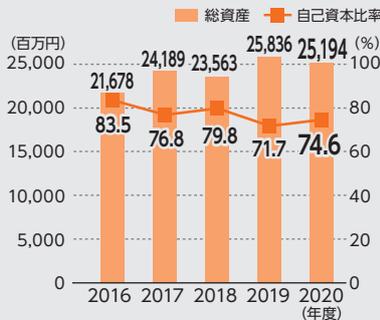
●部門別売上比率(2020年度)



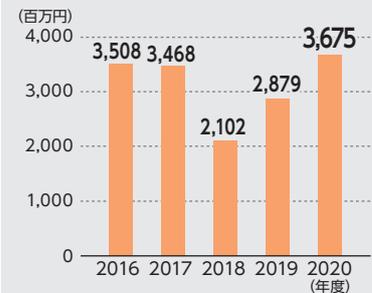
●1株当たり純利益又は1株当たり純損失(△)



●総資産/自己資本比率



●現金及び現金同等物の期末残高

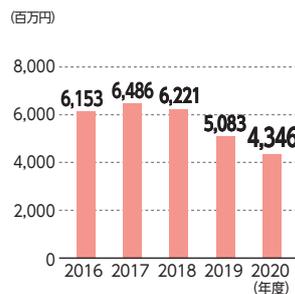


【部門別状況】

テルペン樹脂

近年は、環境対応製品や自動車関連部品、光学、医療などの高付加価値分野のほか、高い再生可能資源使用率や耐候性・耐熱性といった特徴が活かされる分野の開拓に注力しています。

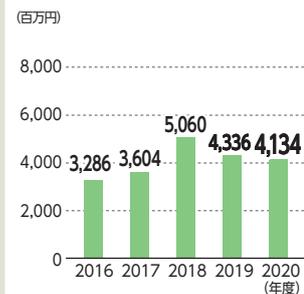
●売上高の推移



化成品

本事業の収益性向上のため、電子部品向け溶剤や特殊化学品の拡販と、環境対応分野や生理活性分野などテルペン類の機能が活かせる用途開拓に努めるとともに、生産設備の合理化を推進しています。

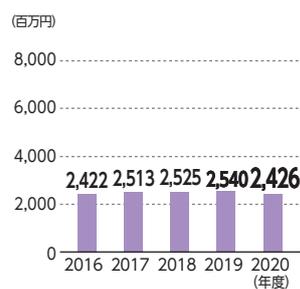
●売上高の推移



ホットメルト接着剤

熱安定性の良い包装用接着剤の展開と、透明性が高く、加工性の優れた食品包材用押し出し樹脂の実用化を進めています。また、海外法規制対応品の開発・製品化を進めています。

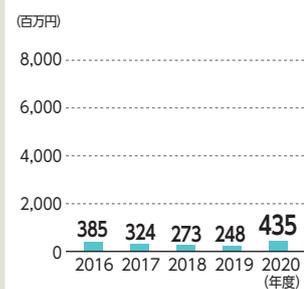
●売上高の推移



ラミネートフィルム

出版物や各種カタログ等の表面光沢加工用として長年実績があり、その技術を活かしサック貼り用OPPの熱ラミ加工を開始し、本事業の収益性向上を推進しています。

●売上高の推移



特集 1 福山工場モデル工場計画

「モデル工場」改善活動の継続により、安全・品質の向上と人財育成をはかっています。

ヤスハラケミカルでは2018年から2020年にかけて、安全と品質の向上とコンプライアンス順守徹底を目的に、「福山工場をモデル工場化する」活動を3年計画で実行しました。今回はこのプロジェクトについてご紹介します。



福山工場 工場長
高橋 忠幸

福山工場 製造課 副主任
田邊 豊彰

■ 前段階の5年間で、ハードとソフトの基盤を整備

製造現場では、「安全」と「品質」を確保するため作業手順書を作成し、それに基づいた工程で製造するのが一般的です。

ヤスハラケミカルでも、かつては生産技術部門で作成した作業手順書をもとに作業し、年に一度「安全審査」により、作業の安全性を確認する活動を行っていました。しかし「安全審査」では指摘の範囲が限定的で、改善の持続性も充分とはいえないことが課題となっていました。

そこで、より現場での改善力を高めるため、2013年から5年をかけて、すべての設備（ハード）と手順（ソフト）を見直す活動を始めました。

この活動の狙いは「作業員自らが中心となり本質的な改善をはかる組織にする」ことです。トラブルの原因を追究して設備改善を自分たちが中心となり行うことはもちろん、作業手順も過去のものを見直し、作業をする人がルールを考え、それを標準化していくことで安全性と品質の向上をはかっていきました。

こうして5年間かけてハードとソフトの基盤を整備した上で、2018年から、次のプロセスとして「福山工場モデル工場計画」をスタートしました。

■ 工場内のすべてで理想を目指す「福山工場モデル工場計画」

本計画のテーマは、福山工場を「安全をはじめ、すべての面で理想的なモデル工場にする」ことです。それを実現するため、製造・技術・検査・業務防災に関する全部門の合同会議体を設立し、キックオフミーティングで活動期間や対象範囲、計画の進め方や進捗管理法などを全部門で確認してスタートしました。

「あるべき理想的な工場」を実現するために、まず最初に身近にある課題を自分たちで抽出しました。また、福山工場と新居浜工場・鶴飼工場・総領工場の工場長・課長・班長クラスで、互いの現場を体験する研修会などを行い、工場間の比較をすることで各工場の強みや弱みを確認しました。さらに、間接部門にも協力を依頼して福山工場の改善点を抽出しました。そして、それらに対し「あるべき姿」を描き、ギャップアプローチで課題解決に取り組みました。

この活動を繰り返すことで、テーマとなった課題数は3年間で最終的には205件に達しました。2021年3月までに、それらの課題をすべて解決しました（常に留意すべき課題については継続対応中）。

「モデル工場」とは

- 1 安全・安心を感じさせる職場
- 2 3Sの行き届いた職場
- 3 コンプライアンス順守
- 4 コミュニケーション、情報共有に優れる職場
- 5 化学工場としての基本を順守する職場
- 6 人財が育つ・育てる職場

■「モデル工場」活動は、人づくりの活動にもつながる

課題を解決する上で、ハード面での改善はお金をかけてできることもありますが、ソフト面では現場で作業する人が手順の意味や目的を納得・理解していないと継続的な改善にはつながりません。そこでは、人と人とのコミュニケーションが重要になります。

また、「モデル工場」活動では、安全や規律、コンプライアンス、省エネなど、作業に関わるすべてを扱うので、チーム一丸としないと解決しない問題も数多くあります。つまり全員が主

役であることを意識しなければいけません。

「モデル」というキーワードにより、自分が「あるべき姿」であるかどうかをいつも意識するようになります。そして、一人ひとりがやるべき行動を考え、自ら工夫し行動するからこそ、良好な結果が得られます。

このように「モデル工場」活動は、チームとして一人ひとりの意識を変えていくことが、もう一つの目的となっています。その意味で、「モデル工場」活動は、人づくり活動ともいえます。



■「モデル工場」とは、完成形はなく 永遠に改善し続ける組織

「福山工場モデル工場計画」は、3年計画の一つの区切りを迎えますが、これがゴールではありません。いまま潜在している問題もあるでしょうし、今後も継続してやらなければいけない課題もあります。また時代の変化にあわせて、変えていくべき作業や仕組みもあるでしょう。

私たちは、この活動を通じて「問題点や課題数は無限大」であることに改めて気づき、課題解決の仕組みを継続させることの重要性を感じています。

改善は終着点なきテーマです。今後は他工場へも水平展開をはかるとともに、その活動の中で「人のチカラ」を育てることで、ヤスハラケミカル全体の企業文化としてブラッシュアップしていきたいと考えています。



特集 2 環境配慮製品開発と販売への取り組み

自然と科学を融合するヤスハラケミカルにとって、
環境配慮製品をいち早く提供することは使命です。

「自然との共生」は、今や全世界の企業が
最優先で取り組むべき課題として
認識されています。

天然由来のテルペンを原料としている
弊社には、さまざまな分野から
環境対応へのお問い合わせが
寄せられています。

ここでは環境配慮製品に関する
弊社の取り組みをご紹介します。



研究部
多田 敏基

研究部
主任 北村 昌三

営業部
課長 後藤 英夫

営業部
日南田 裕介

「自然との共生」を考え環境を営業と研究の重点テーマに

弊社は「持続可能な暮らしの実現に貢献する」ことを大切に
しており、SDGsやESGなど近年の環境への世界的な関心の高
まりを受け、ホットメルト・溶剤・樹脂などそれぞれの分野で環
境対応に関する情報収集を積極的に行い、研究開発と製品化
を進めています。

そんな活動の中で2020年には、バイオマス比率を高めた
「包材用ホットメルト接着剤」を大手飲料メーカーにご提案し採
用されました。

「自然との共生」への取り組みの一例としてご紹介します。

▶ 環境配慮型「包材用ホットメルト接着剤」開発と販売の経緯 ◀

2020年初冬、営業部門で環境を重点テーマに営業活動を進
めることを決め、環境問題に熱心な取引先をリストアップし提
案活動を展開しました。

ある大手飲料メーカーが「バイオマス原料を用いたホットメ
ルト接着剤」に興味を示されたことから、営業担当者と研究担
当者が一緒に訪問し、詳しいニーズの聞き取りと専門的な技術
説明を行いました。そしてすぐに研究部に専任研究体制を整
え、ニーズや条件に合わせた研究開発に取り組みました。

包材用ホットメルト接着剤はこれまでは石油系の原料で製造
するのが一般的で、弊社としても顧客ニーズに合わせたバイオ
マス原料によるホットメルト接着剤は初めての取り組みです。そ
こでこれまで使ったことのない原料も含め天然由来原料を多
数サンプル試験し、包材に適した原料を抽出した上で、配合の
研究を進めました。こうした新材料や新配合に関する研究は慎

重に試験を重ねる必要があるため通常一年程度の期間を要し
ますが、今回の開発に関しては、当社が永年蓄積してきたテル
ペン樹脂の知見と包材用途向けの設計技術を活かした結果、こ
れまでにない高性能のホットメルト接着剤を、約半年という短
期間に開発し提案することができました。



少量のホットメルト接着剤を使うだけで、十分な接着力が確保できます。

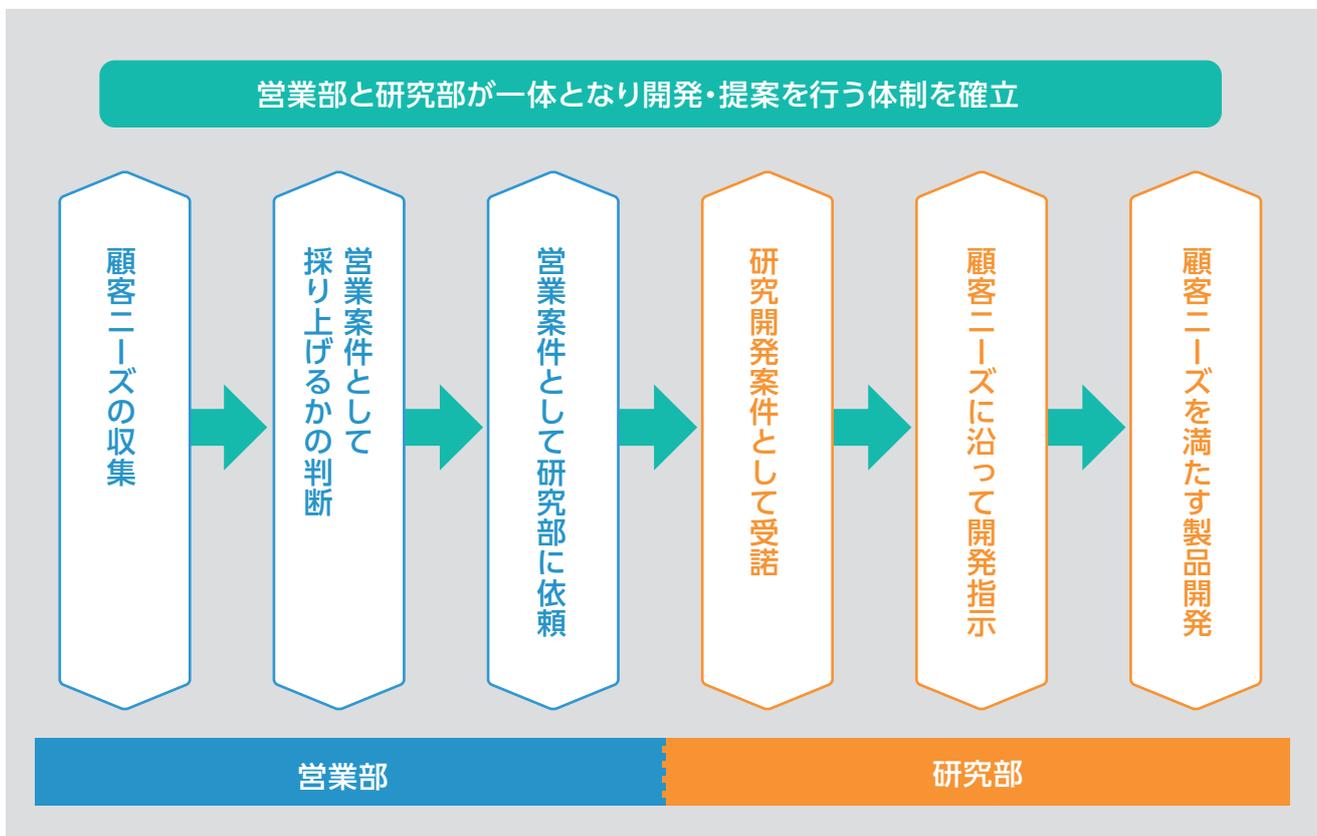
■ 営業部と研究部が一体となって顧客の要求を満たす開発・提案体制

2020年度の環境報告書でもご報告しましたが、弊社では、2019年より営業部と研究部の組織体制を見直し、営業・研究が一体となってお客さまに対応しています。今回の環境配慮ホットメルト接着剤開発提案においても、お客さまから信頼感とご満足をいただく上で、この連携体制で臨んだことで大きな成果に結びつきました。

お客さまからのヒアリングの際、営業担当者とともに研究員が同席することで技術的な説明も的確に行えるだけでなく、お

客さまのご要望を研究員が直接聴くことで理解や意欲が向上し、開発スピード短縮にも役立ちました。また営業担当者と研究員が連絡を緊密に取り合うことで、お客さまへの経過報告もスムーズに行えました。そして、開発途中にお客さまを福山工場研究棟にお招きし開発現場をその目で確認していただくことで、より深い信頼関係を築いていきました。

こうした緻密なコミュニケーション連携体制が、開発スピードの短縮と受注につながる要因になったと考えています。



■ 「持続可能な社会を実現する」ための今後の取り組み

「環境」というキーワードで展開・提案できる製品は、これから多方面に広がる可能性があります。

本件のようにバイオマス原料を使用した製品はもとより、生分解性材料を使用した製品、リサイクル性を考慮した製品、脱プラスチックや減プラスチックなど、さまざまな視点からのアプローチが可能と考えます。

弊社ではそうした将来のニーズに対し、現段階から新素材や関連技術などの情報収集するとともに、分析、評価技術の向上、データの蓄積に努めています。そしてAIを活用した解析や配合支援などを実用化することで、いざ具体的な要望が発生した時に、すぐに対応できる体制づくりを準備しています。

ヤスハラケミカルは、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行うことで、持続可能で豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

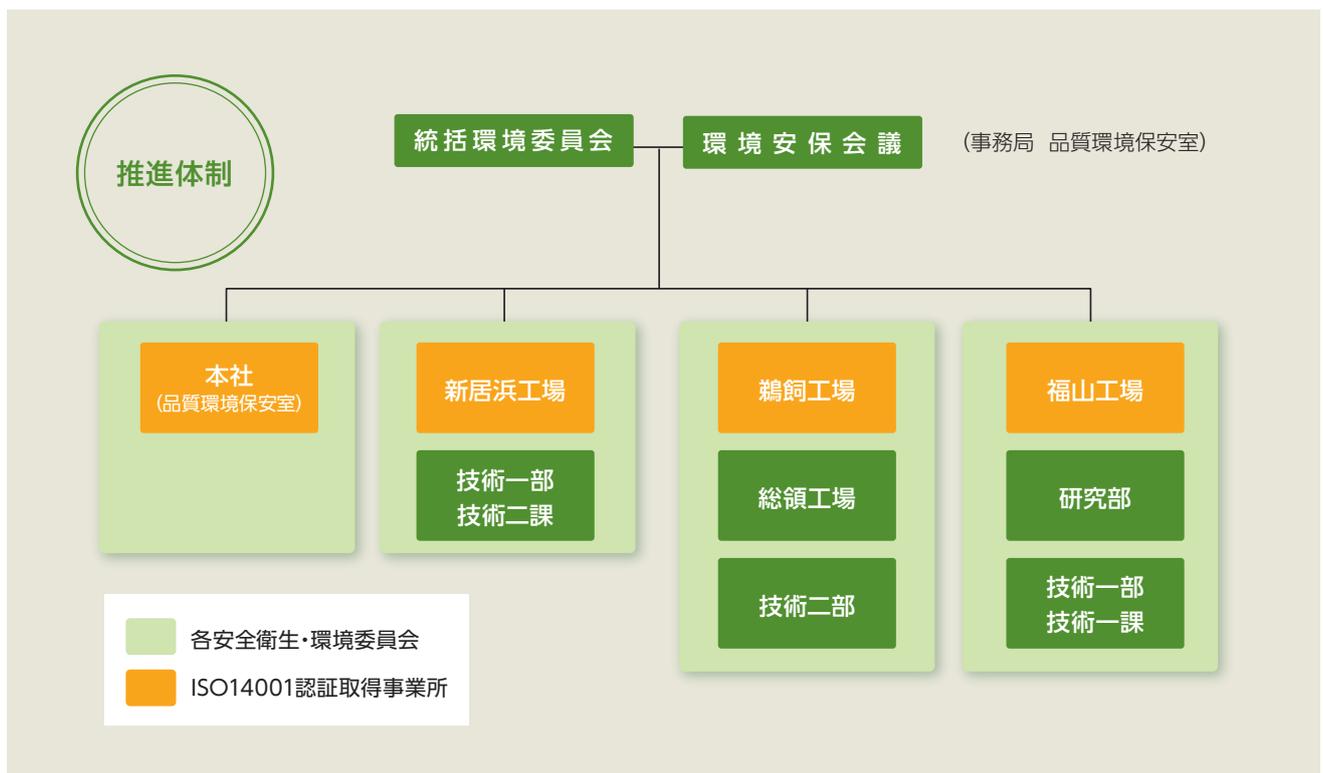
《 環境・安全に関する基本方針 》

- 1 天然物の有効活用による安全で環境負荷低減型製品の開発により、各産業分野における地球環境保護(省資源、リサイクル、健康有害物の排除など)の推進に貢献する製品を提供することで社会に貢献します。
- 2 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクル全般にわたり、環境負荷の低減を図り、環境保護に努めます。
- 3 無事故・無災害の操業を継続し、従業員と地域社会の安全を確保します。
- 4 原料、製品の安全性を確認し、従業員、物流業者、顧客など関係する人々への健康障害を防止します。

全従業員は、この方針の重要性を認識し、法令、規格及び社内ルールを順守するとともに、常に改善に努力すること。

2006年5月2日

ヤスハラケミカル株式会社 代表取締役社長 安原 禎二



目標達成状況

2020年度の具体的目標と実績

ヤスハラケミカルでは、各工場での環境目標を数値設定、励行することで、事業活動全体における環境負荷の削減を推進しています。

環境活動の目標と実績				
活動テーマ	2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
環境マネジメントシステム (EMS) の推進	EMS認証取得3工場の認証維持	EMS認証取得3工場の認証維持	○	EMS認証取得3工場の認証更新
省エネルギーの推進	エネルギー原単位前年度比1%削減	エネルギー原単位前年度比0.6%削減	×	エネルギー原単位前年度比1%削減
温室効果ガスの排出削減	CO2原単位前年度比1%削減	CO2原単位前年度比14%削減	○	CO2原単位前年度比1%削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物排出原単位削減	産業廃棄物排出原単位 7.4%増加	×	産業廃棄物排出原単位削減
	産業廃棄物排出量削減	産業廃棄物排出量 5.1%増加	×	産業廃棄物排出量削減
化学物質の適正管理	PRTR排出量削減	PRTR排出量 0.1%増加	×	PRTR排出量削減
	化学物質リスクアセスメント手法の見直し及び継続実施	見直した化学物質リスクアセスメントの運用開始及び継続実施	○	化学物質リスクアセスメントの継続実施
災害・事故	休業災害・事故ゼロ	休業災害・事故ゼロ	○	休業災害・事故ゼロ
環境・社会報告書発行	年1回発行	6月発行	○	年1回発行

○目標を達成 ×目標を達成できなかった

無災害記録証授与制度

当社は、2002年1月より当社独自の制度によって、安全意識の向上を目的に、規定の連続無災害日数を達成したグループに対して安全表彰を行ってまいりました。長年この制度を運用していく中で、いくつかのグループが、この制度の規定に基づく最長の連続無災害日数を達成したため、更なる安全啓発を図るべく、2018年1月より中央労働災害防止協会主催の中小企業無災害記録証授与制度を活用することにいたしました。その結果、鶴飼工場(従業員数44名)では、2020年10月16日に第1種記録(無災害記録日数800日)を樹立し、中央労働災害防止協会より記録証が授与されました。



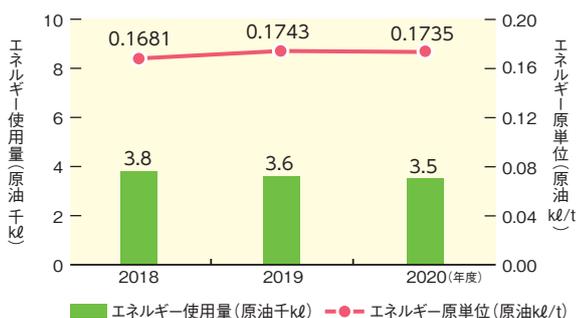
このたび800日連続無災害記録を達成することができ、第1種無災害記録証(努力賞)を受賞することができました。今後もこの賞を励みに労働災害の無い、安全で安心して働ける職場を目指し、全員一丸となって努力いたしますので、従業員皆様方のご協力よろしくお願いたします。

鶴飼工場 工場長 藤田 耕三

事業活動における環境配慮への取り組み

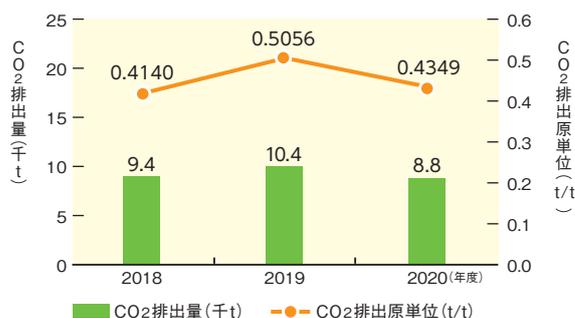
エネルギー使用量

2020年度のエネルギー原単位は、前年度比99.4%と横ばいで推移しました。引き続き省エネルギーに努めます。



CO₂排出量

2020年度のCO₂排出原単位は、原料蒸留残渣の活用等による燃料使用量削減の継続などにより、前年度比14%減少しました。引き続きCO₂排出削減に努めます。



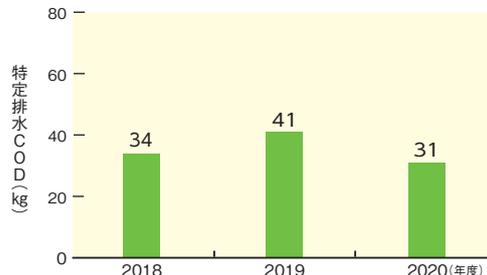
大気汚染物質の排出量

2020年度の硫黄酸化物排出量は、前年度比1.6%増と、横ばいで推移しました。引き続き大気汚染物質の排出削減に努めます。



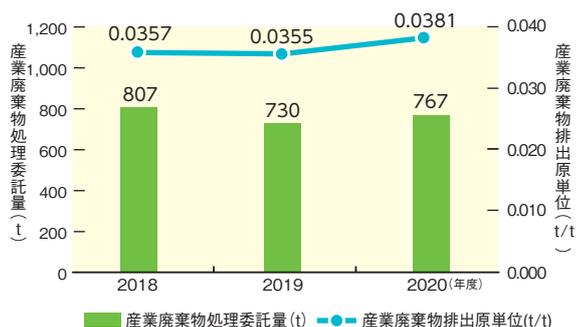
水質汚濁物質の排出量

2020年度のCOD負荷量は、生產品目の変動等により、前年度比24.4%減少しました。引き続き水質汚濁物質の排出削減に努めます。



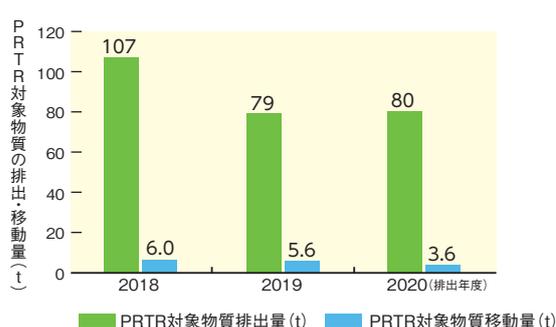
産業廃棄物処理委託量

2020年度は、生產品目変動等の影響により、産業廃棄物排出原単位は前年度比7.4%増加しました。引き続き産業削減、有価物への転換等に努めます。



PRTR対象物質の排出・移動量

2020年度のPRTR対象物質排出量は、前年度比0.1%増と、横ばいで推移しました。引き続きPRTR対象物質の排出・移動量の削減に努めます。





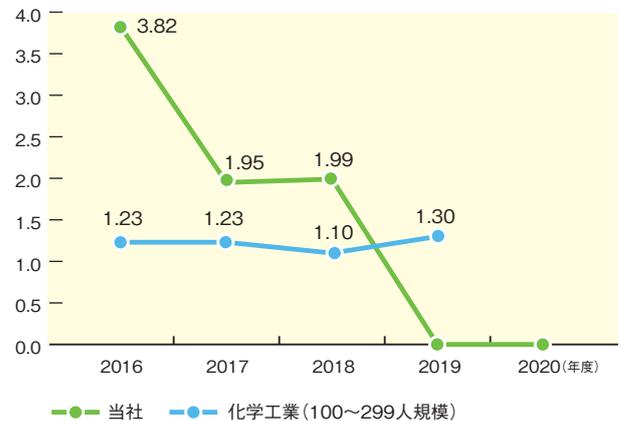
安全衛生への取り組み

ヤハラケミカルは、安全を最優先に事業活動を行い、安全、健康そして快適な職場づくりに取り組んでいます。

労働災害発生件数の推移



休業災害度数率の推移



※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生を頻度を表す。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

※出典：厚生労働省「労働災害動向調査」の「用語の解説」(6) 項アから引用

安全衛生・環境に関する資格の保有者数

当社では、安全衛生・環境に関わる必要な資格の積極的な取得に努めています。

法的に定められた選任者は充足していますが、新入社員をはじめとした若手従業員を中心に資格取得の推進を図り、スキルアップにつなげています。

資格名称	2020年度保有者数*(名)
公害防止管理者	22
エネルギー管理士	11
衛生管理者	26
特別管理産業廃棄物管理責任者	9
ボイラー技士・整備士・溶接士	52
危険物取扱者	181
消防設備士	28
高圧ガス製造保安責任者	70

※延べ人数



COLUMN

本社防災訓練

工場はもちろんのこと、当社においても防災訓練を行い、有事の際に迅速かつ適切な対応がとれるようにしております。

発災現場や自衛消防隊の行動等についてシナリオを想定し、通報訓練、消火訓練、避難訓練を行いました。

有事はないにこしたことはないですが、今後も防災訓練を積み重ね、いざという時に落ち着いた行動ができるよう、万全な体制を構築していきたいと思っています。



お客様への取り組み

品質管理

品質方針

お客様の満足と信頼をいただくために、常にニーズに合った品質の製品を経済的、安定的に提供します。

取締役生産本部本部長 栗本 倫行

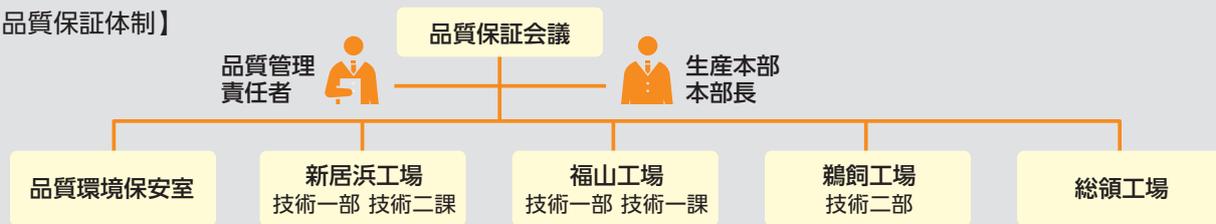
ISO 9001
取得状況

適用工場	新居浜工場、福山工場、 鶴飼工場、総領工場
登録番号	JCQA-0472
認証機関	日本化学キューエイ株式会社

品質マネジメントシステムISO9001:2015を運用し、顧客満足向上、品質向上に努めています。

品質保証活動を全社で推進するため、品質保証会議を合同で定期開催し、お客様からのご要望やご指摘を共有するとともに、工場の問題点などを明確にして解決策を協議しています。今後も製品品質の維持管理や改善に努めます。

【品質保証体制】



株主・投資家の皆様への取り組み

株主総会

当社は、より多くの株主様にご出席いただけるよう、総会を集中日より早期に開催するとともに、株主総会招集通知の早期発送ならびに早期開示を行っています。

2020年6月16日に開催した第62期定時株主総会は、新型コロナウイルス感染症対策として、出席される株主様への検温やアルコール消毒の実施、ならびに会場のレイアウト変更によるソーシャルディスタンスの確保などの対策を行ったうえで実施いたしました。



IR活動

株主・投資家の皆様に向けて、業績、経営戦略、その他当社をご理解いただくために有用な情報を、適時適切に開示しています。ホームページ内の「IR情報」における迅速な情報発信に加え、日々のお問い合わせへの対応等を通じて、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの充実に努めます。



株主還元

当社では中長期的な視点からの株主の皆様への利益還元を重要な政策と位置付け、継続的かつ安定的な配当を実施しています。



従業員への取り組み

》》 仕事と家庭の両立支援

育児や介護といった家庭の事情と仕事を両立できるよう、育児休業制度、介護休業制度、育児・介護短時間勤務制度といった両立支援制度を取り入れています。従業員への認知も定着し、また制度を活用しやすい職場環境を整えたことで、2020年度も様々な人が制度を利用しました。



制度	概要	2018年度	2019年度	2020年度
育児休業制度	子が1歳に達するまで (一定の条件のもと、最長2歳まで延長可能)	4名	1名	1名
介護休業制度	要介護状態の家族がある場合、 通算93日間まで(3回を上限として分割取得可)	0名	1名	0名
育児短時間勤務制度	子が小学校3年生終了まで勤務時間を 9:00~16:00(または16:30)に短縮可能	15名	14名	11名

》》 コンプライアンス研修

2020年6月1日の法改正により、ハラスメント対策が強化され、パワーハラスメント防止対策が法制化されました。これを受け、当社は2020年8月に、弁護士の先生による「コンプライアンス研修」を役員、部門長を対象に実施しました。制度の内容を理解するとともに、実際の判例を題材としてハラスメントが社会や会社へ与えるリスクについて学ぶことができました。



地域社会への取り組み

》》 清掃活動

地域社会への感謝の気持ちを込めて、本社事務所、各工場周辺の清掃を行っています。



》》 スポーツ支援

当社は、女子バレーボール市民クラブチーム「岡山シーガルズ」の応援を通じて、スポーツ振興に取り組んでいます。定期的に開催される同チームによる府中バレーボール教室を共催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。

》》 職場体験学習

地域の学校の生徒を対象に、職場体験学習の受け入れを行っています。2020年は新居浜工場に1名の高校生が職場体験学習に訪れました。



<http://www.yschem.co.jp>



ヤスハラケミカル株式会社

〒726-8632 広島県府中市高木町1080番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。